

フィンドレー大学への交流留学 月例報告書 8月分

1ヶ月の留学を通して感じたことを一言でまとめると「予想外」です。なにもかも初めての経験なので当たり前ですが良いことも悪いことも自分の予想を超えてきました。現在の状況について報告したいと思います。

まず、1つ目の環境についてです。大学から渡されたパンフレットには「世界約40カ国から約250人の留学生が集まっている」とあったのでアメリカ人だけではなくいろんな国の留学生と交流ができることを期待していましたが、それは違いました。授業が始まる前のオリエンテーション期間は他の留学生と交流する機会がありましたが、その時でさえ多国籍な印象は受けませんでした。さらにオリエンテーション期間が終了し、授業が始まると他の国の留学生は学部生だったのでIELPで英語を学ぶのは9割日本人という結果になりました。勿論、留学生で学部を取る人もいるということは承知していましたが、それでもIELPに日本人しかいない事実これでは日本と変わらないと思い残念な気持ちになりました。

また、私は語学学校ではなくなぜこの交流留学を選んだのかというと、実際に現地の大学に行くことでネイティブスピーカーであるアメリカ人の学生と交流する機会が持てるところが最大の魅力だと考えたからです。しかし、現実には厳しかったです。私自身がネイティブスピーカーと対等に喋れるだけの語学能力がないのは十分承知しています。それを獲得するために留学に来ているので、喋れないなりに自分から話しかける、イベントに参加する、とにかく外に出るなど努力をしましたがそもそも多くのアメリカ人が「日本に興味がない」ので会話を続けることがほぼ不可能でした。事実、フィンドレー大学の日本人教員の先生が開催している授業のうち1つは日本人とアメリカ人1:1で活動をする授業がありましたがアメリカ人の学生が集まらなかったため授業自体がなくなりましたし、もう1つは日本の映画を通してアメリカ人の学生が日本の文化について学ぶ授業があります。この授業はアメリカ人3人に対して日本人が10人以上となっているので比率が思っていたものと違いました。

2つ目の授業についてです。IELPの授業では今のところ内容が特に難しいということも宿題に追われて大変ということもありません。さらに、ほぼ日本人しかいないので本当に日本と変わらず、誰が意見を言うのか「シーン…」となる教室の空気も日本と変わらないです。何が一番大変だったかということ授業料の支払い、登録方法、IELP以外の授業の取り方、奨学金、単位を超過するとどうなるかなど様々な点において日本人の先生の助けがなければ何もわからなかったことです。聞いた話によると今年の7月に今まで留学生の受け入れを担当されていたクリスさんという方が転職したそうです。そしてアメリカには

仕事の引継ぎという文化もないそうで、まるで私たちが初めて受け入れる留学生のような対応をされたことです。これでは大学から貰った資料に書いてあった「留学生の受け入れシステムは充実している。」とは言えないと思います。フィンドレー大学の日本人教員である川村先生と青木先生は本来の仕事ではない私たち留学生の対応をしてくださいました。本当にこの先生方がいなければ今よりも酷い状況になっていたと思います。また、大学から貰った資料では「単位数が18を超えない範囲で学部の授業を1つ（2単位の授業）取ることができる。」とありますが見たところ2単位の授業は比較的珍しく、1単位か3単位の授業がメインでしたし、私たちが履修登録をはじめる頃にはすでに満席となっている授業やIELPと時間が被っていて取れないなど難しいです。

私は休学をして留学をするというこのチャンスをずっと待っていました。他の人よりも待った時間は長くやっと手に入れたチャンスでしたし、ここ最近の異常な円安のせいで何をするにしてもお金がかかります。時間的・金銭的・自分の気持ちをかけてきた留学がこれか…というのが正直な感想です。多くの支えてくださった人が「楽しんできてね。」と言ってくれていますが「楽しむ」ことがこんなに難しいとは思いませんでした。気持ちを切り替えて頑張らないといけませんがそう簡単に割り切れるものではないので、何とかしようと毎日頑張っています。

そして、日本人がいなくアメリカ人の学生がいる場所に参加したいと思い合唱のクラスを取りました。楽譜は読めない、歌うことは苦手ですが失敗をしてもいいという気持ちで臨みました。そこでは音楽を通じてアメリカ人の学生との繋がりがまず一つできました。日本の授業とは異なり、クラスでキャンプに行くなど良い「予想外」のこともありました。キャンプでは合唱の練習はもちろんですがみんなで焚火をしたり、湖で遊んだり、バレーボールをしました。特に楽しかったのは焚火で「S'more」をつくったことです。マシュマロを焼いてチョコレートとクッキーでサンドするキャンプファイヤー定番のお菓子です。マシュマロを焼くときにアメリカ人の友達が地面に落ちている枝を拾いそこへマシュマロを刺して「これで焼くんだよ」と言われたときは驚きました。そして私が初めて食べるS'moreであり、とてもおいしいという焚火の周りにいた人たちみんな喜んでくれました。アメリカでの生活で初めて経験することを一緒に喜んでくれる人たちがいて、とても嬉しく思いました。

まだまだ、1ヶ月とはじまったばかりなので、これから出会うたくさんの「予想外」のことや簡単にはいかないことも楽しむことができるようになりたいと思います。



合唱のクラスのクラスメイトとキャンプ



キャンプでの写真